

第 12 回尖石縄文文化賞

受賞者: 今福利恵

尖石縄文文化賞条例にもとづく同賞選考委員会は、柳平千代一茅野市長の諮問を受け、8月31日尖石縄文考古館で開催された。今回、選考・審査の対象となったのは、個人・団体延べ17件である。

候補者の内訳は、30歳代から60歳代におよび、所属機関や研究歴は多彩で、「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英式が目指した縄文時代の歴史の本質に迫るすぐれた研究と活動を示すものであった。このことは、本年第12回目を迎えた本賞が、広く学界等一般に周知された結果をよく示すものである。

こうしたすぐれた候補者を得て、選考委員会において慎重な審議を行い、第12回尖石縄文文化賞の受賞者として、今福利恵（いまふくりけい）氏（山梨県）を全会一致で推薦することに決定した。

同氏の研究は、八ヶ岳山麓を中心とした中期縄文土器の文様を構造的に把握し、土器文様の持つ属性の組み合わせが一定の規則性をもったパターンであり、土器製作の流儀であるとした。その流儀の共有は社会性をもっていると評価し、土器文様に遺跡間の関係性を見出して、縄文時代の社会関係論を展開する。こうした研究は、従来の土器編年研究から脱却した新しい地平を開くものである。

今福氏は、土器の文様に社会的な性格を見出し、縄文時代の社会関係を論ずるまでに発展させており、縄文人の行動や社会生活を明らかにしようとした宮坂英式の研究・業績を顕彰する宮坂英式記念尖石縄文文化賞の趣旨に沿った、まことにふさわしい受賞者である。

2011年8月31日

宮坂英式記念尖石縄文文化賞選考委員会

委員長 小林 達雄



第 12 回受賞者 今福利恵 氏